

漫 録

對話「産業道路」

江 口 福 來



夢を見てゐる男「そこに來たのは誰だ。」

ある男「俺か、俺は産業道路の精だ。」

夢を見てゐる男「變な男だな、土氣色をした薄汚ない男だな。」

ある男「あたりまへよ、道路の精だから、土氣色をしてゐるんだ。」

夢を見てゐる男「うむ、さうだ。だが、俺は、墨染櫻の精

に來て貰いたいな、あの綺麗な精なら天下をねらふ考えを棄てゝも、話相手になつてゐてやるぜ。」

ある男「まあ、そんなことを云はずに、俺の話も聞いてくれ、さうして矢張り天下を考えてゐてくれ。」

夢を見てゐる男「俺はこの頃、頭が痛いんだ、對手が女なら、この痛みも直ぐ癒るんだが、男の話となると、聞きたくない。」

ある男『それなら、女に化けてもいいが。』

夢を見てゐる男『もう遅いよ。』

ある男『さうだ、正體を見せて仕舞つたからな。』

夢を見てゐる男『仕方がない、話なら簡單にして、入れ代りに墨染でも寄越してくれ。』

ある男『俺の話は、かなり難かしいよ、だが、俺の話を終りまで聞いてくれたら、俺の妹の雪女郎をお嫁さんにやらう。』

夢を見てゐる男『屹度か。』

ある男『屹度だ、その代り、俺の話は少し長いぜ、俺は明治の初年に太政官が二等道路と名つけた道路なんだ、徳川時代の五街道には勿論入つてやしない、だがな、二等道路でも官費やら地方費やらで養つて貰つてゐたよ、明治九年に制度が改まつて、縣道といふ名になつた、道路法では府縣道といふことになつたんだ、その頃から、随分地方のために、働いてやつたよ、大動脈の國道が、硬化しないやうに活動してやつたよ。』

夢を見てゐる男『あんまり面白くも無い話だ、雪女郎の美くしさでも豫想しながら、聞いてゝやるとしやう。』

ある男『さうだ面白い話ぢやないがな、まあ聞いてくれ原内閣の時に、郡制が廢止されたな、さうして郡費支辨であつた太政官時代の三等道路が、大部分府縣道に昇格をしたよ、その時は不愉快だつた、昇格した方はよからうが、何となく俺等の地位が詰らなくなつたやうに感じられたからよ、階級制度に囚はれて云ふのぢやない、價値のあるものと無いものとを混同されちやたまらないと思つたんだ。』

夢を見てゐる男『普選になつてから、舊有權者の棄權が殖えたのも、それと同じわけだな、俺にとつては墨染は價値があり道路の精は價値が無いといふのと同じだな。』

ある男『二等道路から、府縣道に昇格した中には、随分といかゞはしいのもあつたんだ、内務省は俺等の不愉快さうなのを見てとつて、主要府縣道といふ名をつけてくれた、さうして地方長官の施設を、内務省が監督してくれることにしたんだ、この點は、内務省に感謝するよ。』

夢を見てゐる男『あの時の内務大臣は俺だよ、そこに逆とんほになつて禮を云つて見な。』

ある男『違ふよ、内務大臣には、そんなに墨染のことばかり思つてるものはなれない、 \parallel だがな地方長官の奴め、俺を選択する命令があつても、内務省の監督を受けるのをいやがつて。内務省からいくら照會されても、滲つてゐやがつた、その揚句、成るべく少くなく撰擇したもんだ、俺等仲間でも當然主要府縣道になる奴があつてやしない。』

夢を見てゐる男『そんな地方長官は、バツサリ首を斬つちまへ、俺が内務大臣なら、斬つちまふがな四十幾つまとめて \parallel さう思ふと腕がむづ／＼して來た。』

ある男『腕の喜三親分に頼まうか。』
夢を見てゐる男『早く頼みねえ。』

ある男『若槻内相の時に、俺達の仲間の面倒は國家で見えて貰ひたい、國家で改良計畫を樹て、貰ひたいと陳情しやうと思つたけれど、消極一點張りの憲政會内閣ぢや、新しい仕事の話は通らない、と思ひ直してやめたよ。』

夢を見てゐる男『案外意氣地無しなんだな、だから顔の色も土氣色になつちまつたのだ。』

ある男『その憲政會内閣の時に、土木局長の堀切善次郎さんが、伊太利あたりで流行つてゐる自動車道助成費といふのを、豫算に計上しかけたんだよ、處が、豫算確定期に入ると、いつとはなしに消えてなくなつたのさ、俺は、自動車道助成費といふ名も氣に喰はなかつたから、別に口惜しいとも思はなかつたが。』

夢を見てゐる男『どうせ、何とかの精神間では、消えてなくなるのは馴れつこだからな。』

ある男『それでも、あてにしたものに消えられちや口惜しいが \parallel 堀切さんの自動車道路といふのが、俺等のことだつたさうだが、今考えても詰らない名だつた、今のやうに産業道路といふ名は、その翌年次田大三郎といふ人が土木局長の時に、ヒョッコリ顔を出したのだ、豫算には産業道路助成費といふのが計上されかけたんだが、濱口ライオン内相が、自分で削つて仕舞つて到頭また日の目を見ずさ、若

槻さんや濱口さんなんて、道路のことはテンで判らない、今の内務政務次官の武藤さんが、若槻さんや濱口さんを、道路のことが判らない男だと攻撃したが、その通りだ。』

夢を見てゐる男『俺の處に武藤さんを賞めに來たのかい。』

ある男『あの人なら、賞めてもいいだらう、Ⅱ今の内閣は何と云つても、積極政策を黨の根本方針としてゐる政友會内閣だ。だから、やつと、俺等の方へ廻る金をくれるやうだ上に鈴木内相あり次官に武藤朝臣あり。』

夢を見てゐる男『それでいくら貰へるんだ。』

ある男『そこだよ、そこには、俺としちやまだ不平があり不満があるのさ、何しろ道路改良費七百萬圓のうちの二百萬圓なんだからね。』

夢を見てゐる男『二百萬圓でもいゝぢやないか。』

ある男『そこだよ、議會を無事に通過したら、二百萬圓になるのだが、通過しなかつたら、牡丹餅が眼の前を素通りするのと同じになるぢやないか、くれるやうだ、といふのはそれがあるからさ。』

夢を見てゐる男『成程な、議會ぢや、野黨の方が多數だからな、どつかの怨みを、道路改良費に持つて來られちゃ堪らないな。』

ある男『今の内閣でも、こゝまでになるには、容易なことぢやないんだ、豫算の出來上る前に、道路課長の丹羽七郎さんに、今年はどんな工合でしやうと問れたもんさ、すると吾々は事務官としてベストをつくしてゐるといふんだ、土木局長は缺勤中だつたから、武藤政務次官を訪れたら。』

夢を見てゐる男『またかい。』

ある男『またでも話の順序だ、さうしたら、逆にお説法を聞かされちやつた、憲政會の内閣は、囚はれた豫算だけをつくつて、國民生活の向上を圖らなかつたから、世の中が萎靡したのだ、固と道路改良費なるものは、吾が黨の原内閣時代に創始したものである、今に之を改訂して國民生活の實際の要求に適ふやうにすることは、我黨年來の主張である、この武藤が政友會に在る間は、君達の陳情を待つまでも無い、改良の方法を講ずるつてさⅡだが、その武藤さ

んには病氣になられて仕舞ふ、豫算閣議では、産業道路改良費と銘うつた豫算が削られるといふわけで、一時は、また心細くなつたもんだ、鈴木内相やら武藤次官のおかけで、道路改良費から二百萬圓貰へることになつたんだが……議會をもうまく通過してくれれば、いゝがな。』

夢を見てゐる男『俺が運動してやらうか。』

ある男『女ばかり欲しがつてる奴の行動には、信用が置けないから、頼むまいよ、だが、俺はな、若し野黨の奴が、道路改良費に手をつけたが最後、長い間の不平を大爆發させて、目にものを見せてくれるんだ。現内閣にだつて、昭和四年度には、産業道路改良費としてチャンと認めて貰ひたいや、さうして今年の不足の二百萬圓と既定の五百萬圓と合せた七百萬圓を認めて貰ひたいや、それが出来ないやうなら産業立國の看板を取りかへるが、いゝ。』

夢を見てゐる男『おまへの信頼してゐる鈴木さんや武藤さんがありやア、いつかは何とかかなるぜ。』

ある男『さうは思ふが。』

大體道路豫算二十五萬七千圓

明年秋季京都で行はせらるゝ御即位に伴つて、京都や宇治山田市の道路を改修する必要があると言ふので、地元市會では街道改良の計畫を樹て、其の工事に對して國庫の補助を申請してゐたが、今回内務省は兩市に對し二十五萬七千圓補助することに内定した。

これで京都の最大幹線である烏丸通りは、遅蒔きながら舗装さるゝことゝ爲つたが、市村前市長の職制改革を動機として土木局やら電氣局の幹部が全部が辭職したので、京都市としては比較的に大きな此舗装工事を甘く執行するがドゝか、頗る懸念に耐へない、阪神國道改築の功勞者溝口親種君が主任技術者として入市したから、技術の方面は安心だが、我利々々亡者の集つてゐる市會の連中は溝口君の思ふ所に任せて此大工事を執行せしむるだらうか、吾人は今から之を監視してゐる。